

# 2015年3月期 第2四半期決算報告 個人投資家の皆さまへ

第一生命保険株式会社

証券コード: 8750

一生のパートナー

第一生命

## 2015年3月期 第2四半期決算のポイント

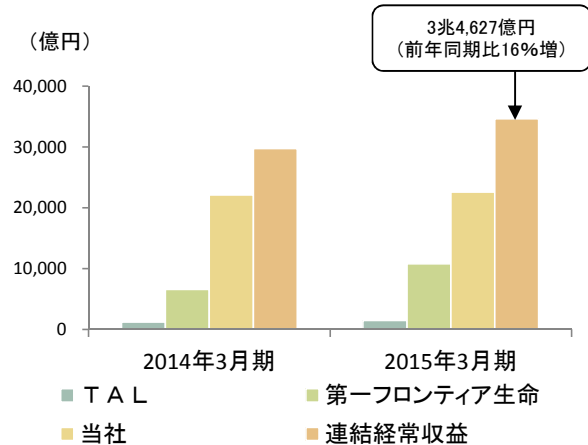
- 2015年3月期第2四半期の連結経常収益は前年同期比二桁の増収となりました。成長分野における好調な保険販売が続いたことが主な要因です。
- 連結経常利益・連結純利益は、第一生命単体の資産運用収支の改善や第一フロンティア生命の収益力向上により大幅な増益となりました。
- 2015年3月期の連結業績予想は、好調な営業業績と資産運用収支を踏まえ上方修正しました。

### (1) 経常収益

連結経常収益は3兆4,627億円(前年同期比16%増)となりました。

成長分野における保険販売の好調を背景にグループ各社の保険料等収入が前年同期比で増加しました。中でも金融機関の窓口で貯蓄性保険商品を販売する第一フロンティア生命の保険料等収入は同約3,600億円増加しました。オーストラリアのTAL社(以下、「TAL」)の保険料等収入も増加しました。

### 経常収益 第2四半期実績

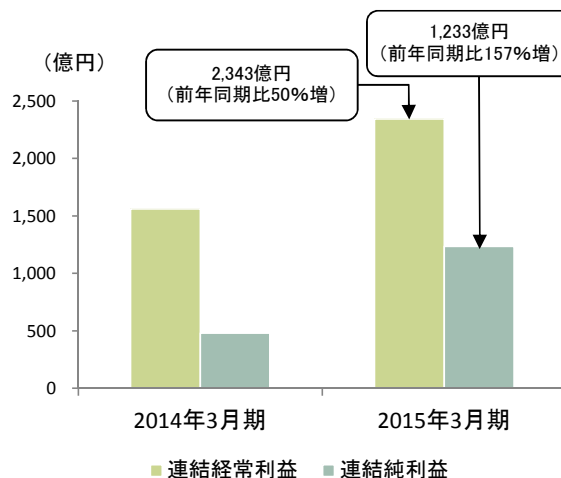


## (2) 経常利益・純利益

連結経常利益は2,343億円(前年同期比50%増)、連結純利益は1,233億円(同157%増)と大幅増益となりました。

第一生命単体では、金融経済環境が良好に推移したため、資産運用収支が改善しました。第一フロンティア生命では、保有契約高の増加に伴う収益力向上等により収支が改善しました。

### 経常利益・純利益 第2四半期実績



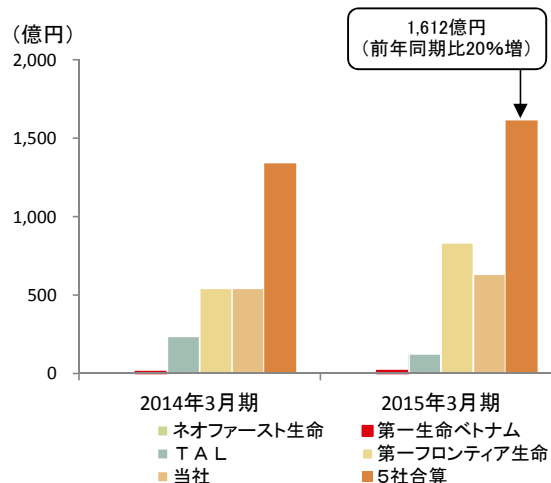
## (3) 新契約の状況

新契約を1年あたりの保険料に換算した新契約年換算保険料は、第一生命単体(個人保険・個人年金保険の合計)、第一フロンティア生命、ネオファースト生命<sup>(※)</sup>、TAL、第一生命ベトナムの5社合算で、1,612億円となりました。

第一生命単体では前年度に実施した料率改定に伴う販売減から回復したことに加え、相続準備のための貯蓄性商品の販売が増加し、成長分野である第三分野の販売も好調に推移しました。第一フロンティア生命の新契約は外貨建商品を中心に大きく増加しました。

(※)関係当局による認可等を条件として、2014年11月25日に損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命からネオファースト生命へ商号変更(社名変更)を行う予定です。ネオファースト生命は2014年第2四半期(7-9月)のみを記載しています。

### 新契約年換算保険料 第2四半期実績

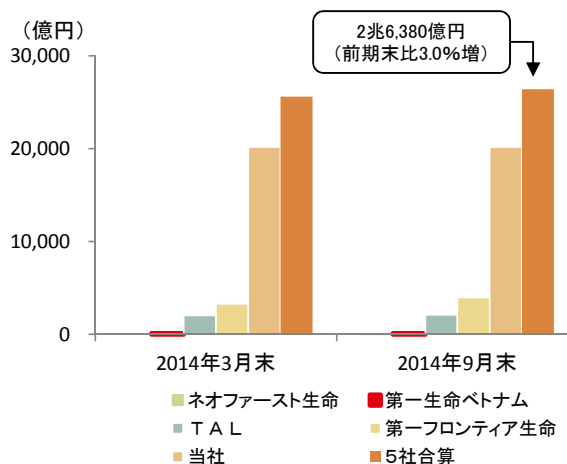


## (4) 保有契約の状況

保有契約を1年あたりの保険料に換算した保有契約年換算保険料は、第一生命単体(個人保険・個人年金保険の合計)、第一フロンティア生命、ネオファースト生命、TAL、第一生命ベトナムの5社合算で、2兆6,380億円となりました。

第一生命単体の保有契約は前期末比0.1%増、うち、第三分野は同1.5%増となりました。第一フロンティア生命は同20.6%増、TALは同2.2%増(現地通貨建て円建て共)となりました。第一生命ベトナムも着実に保有契約を積み上げています。第一生命グループ全体では同3.0%増と着実な成長を遂げました。

### 保有契約年換算保険料



(5) 含み損益

当社の一般勘定資産の含み損益(2014年9月末)は、3兆9,328億円となりました。  
国内外の株価上昇と金利低下により、国内債券、国内株式および外国証券の含み益が増加し、一般勘定資産全体では前期末比で8,823億円の増加となりました。

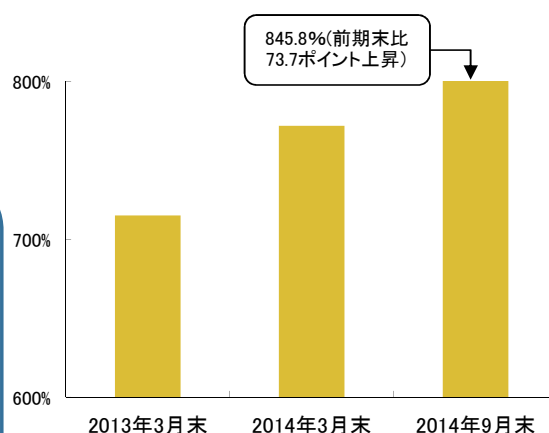
含み損益(当社、一般勘定)

	2014年 3月末	2014年 9月末	(億円) 増減
有価証券	30,056	38,560	+8,503
うち国内債券	13,813	16,893	+3,080
うち国内株式	9,318	12,502	+3,184
うち外国証券	6,422	8,676	+2,254
不動産	482	501	+19
その他共計	30,505	39,328	+8,823

(6) ソルベンシー・マージン比率(注)

ソルベンシー・マージン比率(2014年9月末)は、有価証券の含み益増加と第一生命単体の増資などにより、前期末に比べ73.7ポイント上昇し845.8%となりました。

ソルベンシー・マージン比率の推移



(注)ソルベンシー・マージン比率とは?

ソルベンシー・マージン比率とは、通常の予測を超えて発生するリスクに備えて「支払余力」がどの程度カバーされているかを示す行政監督上の指標のひとつです。

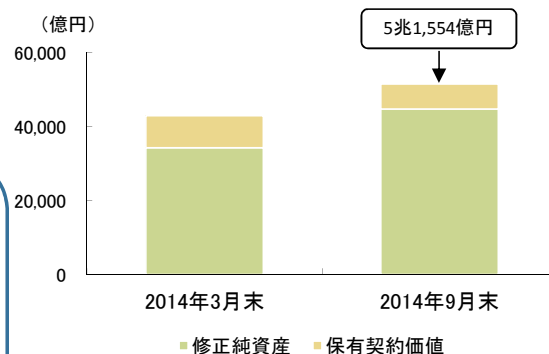
具体的には、生命保険会社が抱える保険金等のお支払いに係るリスクや資産運用に係るリスクなど、多様なリスクが通常の予測を超えて発生した場合、資本などの内部留保と有価証券含み益などの合計(ソルベンシー・マージン総額)で、これらリスク(リスクの合計額)をどの程度カバーできているかを指数化したものです。

同比率の算出は、ソルベンシー・マージン総額をリスクの合計額で割算して求め、同比率が200%以上であれば、健全性についてひとつの基準を満たしていることを示しています。

(7) エンベディッド・バリュー(EV)(注)

当社グループのEVは、新契約の獲得、有価証券の含み益増加、第一生命単体の増資などにより、前期末に比べ8,607億円増加し、5兆1,554億円となりました。

エンベディッド・バリュー(EV)



(注)エンベディッド・バリュー(EV)とは?

当社グループは市場における当社の企業価値を測る指標として、EVを開示し、その向上に努めています。

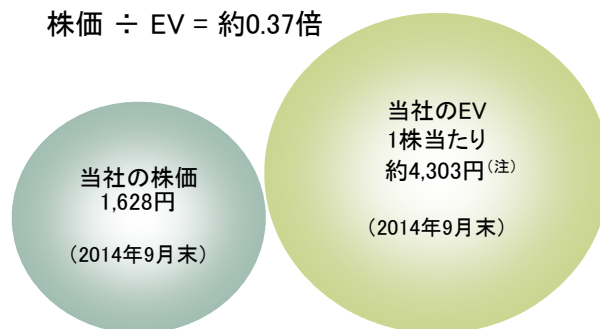
現行の生命保険会社の法定会計では、新契約獲得から会計上の利益の実現までに時間がかかります。通常は契約の初期に販売手数料等の費用の大部分が発生する一方で、生命保険の契約は20年、30年と非常に長期にわたるため、時間の経過にともなって収益が発生し、長期間で収益を上げる仕組みとなっています。EVでは、この将来にわたる利益貢献を現時点に割り戻して認識するため、法定会計による財務情報を補強することができると考えられています。

(8) 株価EV倍率

株価をEVで割って求めた株価EV倍率(2014年9月末)は、約0.37倍となりました。

株価EV倍率(2014年9月末)

株価 ÷ EV = 約0.37倍



(注) 当社の1株当たりEVは、当社グループのEV5兆1,554億円(2014年9月末)を、当社の発行済株式数約12億株で除して算出したものです。

(9) 業績予想

2015年3月期第2四半期決算は、大幅増収増益となりました。第一フロンティア生命における好調な保険販売により保険料等収入の増加が見込まれること、第一生命単体においても、良好な金融環境に伴う資産運用収益の増加が見込まれることから、連結経常収益と連結経常利益の通期予想を上方修正しました。

連結純利益は、現在検討が進められている法人税減税の決算への影響を見極める必要があることから、現時点では業績予想を据え置きとします。

連結業績予想

	2014年3月期 (実績)	2015年3月期 (予想)	増減
経常収益	60,449	64,090	+3,640
経常利益	3,047	3,180	+132
純利益	779	800	+20
			(円)
1株当たり純利益 (※)	79	67	△ 11
1株当たり期末配当金	20	25	+5

(※) 1株当たり当期純利益の計算に際しては、株式給付信託(J-ESOP)により信託口が所有する当社株式及び信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-ship®)により第一生命保険従業員持株会専用信託が所有する当社株式を除いています。

免責事項

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。